

### 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月21日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300666号		
法人名	有限会社 イーライフ		
事業所名	グループホーム 明		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 祓川町 3982番地 1 (電話) 0994-43-0550		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年5月15日	評価確定日	平成21年6月6日

#### 【情報提供票より】 (平成21年 2月 1日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人	非常勤 3人 常勤換算 15.2人

##### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	17,100 円
敷金	有 ( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		800 円	

##### (4) 利用者の概要 ( 2月 1日現在 )

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人青人会池田病院
---------	-------------

#### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自治会奉仕作業時の参加者に手作りのおやつを提供し喜ばれている。一人暮らしの高齢者に声をかけるなど、地域住民と密接な繋がりを築き、地域密着型サービスとして入居者や地域の高齢者を支えている。協力病院や訪問看護ステーションとも協力し、希望があればホームで看取りをするなど、利用者や家族の思いや意向を尊重している。味噌作りやそば打ちなど利用者の得意な事を積極的に進め、支え支えられる明るい暮らしを支援している。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた方針の共有に付いては、改善されている。看取りについての指針を文書化し、本人・家族、主治医、訪問看護師、職員と話し合っ共有して改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義を理解し、全職員で評価に取り組み、具体的な改善点を話し合い、サービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表・民生委員・市担当者等多くの参加を得て定期的に開催している。事業所の現状や取り組み、料金改定など話し合い、家族や委員の理解や協力を得られるよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年3回～4回開催し、運営推進会議に家族代表も参加し、家族の意見や苦情を聞く機会を設けている。意見やアドバイスなど職員会議で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、奉仕作業への参加や自治会の定例会をホームを利用してもらう等、地域の一員として活動している。地域の一人暮らしの方への声かけや保育園児とのふれあい、夏祭りへ住民を招待するなど、積極的に交流している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念に、「地域とともに支え支えられる明るい暮らし」を加えて、地域密着型サービスとしての役割を考えた、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの見易い所に掲示し、ミーティング等で話し合い、共有している。入居者が普通に生活できるよう理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会の定例会をホームで開いてもらったり、奉仕作業にも参加している。地域の一人暮らしの方への声かけや夏祭りへの招待、保育園児とのふれあいなど住民と積極的に交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解し、全職員で評価に取り組み、具体的な改善点を話し合い、サービスの質向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に家族代表・民生委員・市担当者等多くの参加を得て開催している。事業所の取り組みや料金改定など話し合い、家族や委員の理解や協力を得るよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターには介護保険のこと等相談しており、顔馴染みの関係を築き、連携してサービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の様子や健康状態、金銭管理など報告している。定期的にホーム便りを発行し、行事での利用者の写真など掲載し送付している。県外の家族には電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回実施しており、運営推進会議に家族代表も参加し、家族の意見や苦情を聞く機会を設けている。意見やアドバイスなど運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤採用が多く離職者は少ない。認知症介護の経験者を採用しており、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、ケア会議後にテーマを決め研修を実施している。地域の連絡協議会の研修も参加し、研修報告も実施し、全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に加入し、研修に参加し、他のホームとも交流している。情報交換や相互訪問を通して、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には見学を勧め、お茶を飲んでもらい、レクリエーションなど一緒にして、雰囲気になじみの関係を作り、短期入所の利用もあり徐々に馴染めるよう取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に支えあう関係を掲げ、管理者・職員は重要性を認識しケアに活かしている。手打ちそばや味噌作り、切干大根などの季節の保存食など作る中で、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、入居者の思いや意向を聞くよう努めている。困難な方は家族からの聞き取りや選択の方法など工夫し、その人らしい暮らしを支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や主治医・訪問看護師等関係者から、助言やアドバイスをもらい、ケアチェック表等参考にしながら、スタッフミーティングで話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時や家族の希望など計画変更が必要な場合は、期間に関係なく関係者と話し合い、計画の見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による24時間の健康管理や、短期入所の利用の他、病院受診、通院介助、墓参りなどの特別な外出など家族と話し合い柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医の受診を支援している。訪問看護師による週1回の健康管理や、月1回の往診など適切な医療の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての本人や家族の意見を尊重し、ホームとしての看取りについての指針を文書化している。希望があれば家族や主治医、その他の関係者と話し合い、方針を共有し看取りを実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導時などの声かけや対応、守秘義務などプライバシーの確保について、研修を実施したり、気づいたときに注意し合うなどしてプライバシーに配慮したケアに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や表情、会話など考慮しながら、散歩やレクリエーションへの参加、その日の過ごし方など一人ひとりのペースを尊重した支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。食事の下ごしらえや配膳、片付けなどできる事をしてもらい、楽しく食事をしている。希望があれば外食にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の時間や体調に配慮しながら、毎日午後から支援しており、入居者は入浴を楽しみにしている。月に1回程度温泉に行く事もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの得意な事を活かし、洗濯物干しやたたみ、歌、おどりなど役割や楽しみを支援している。気晴らしに季節の花見など計画し、喜ばれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に配慮しながら、散歩や買い物、ドライブなど外出の機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理念にある「認知症になっても普通の生活を続けられる暮らし」を支えるために、日中は玄関の鍵はかけずに、見守りを徹底し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署や消防団の協力を得て、消火訓練や避難訓練を実施している。発電機の購入や飲料水用にボ-リングをして準備している。非常食も備えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量をチェックし記録している。栄養バランスについては栄養士にアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは大きな窓で、明るく開放的である。和室も広く、くつろげる雰囲気がある。廊下やホールに利用者手作りの作品や写真が掲示され、季節の花を飾り、生活感や季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の使い慣れた、三面鏡や椅子等を持ち込み、家族の写真や人形など飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。